



## で き こ と

6月18日(金)、平成22年度公立図書館等職員専門研修「児童・青少年サービス研修」が開催されました。

午前中は当館のAVモデルルームにおいて、「わらべうたとおはなし会」と題して元愛知県美和町図書館司書の山口陽子氏に講義をしていただきました。山口講師は図書館で勤務する前に保育士として保育園などに10年ほど勤務され、その中でコダーイシステムによるわらべうたを学ばれました。その後、子育て中に司書資格を取得して美和町図書館(現あま市美和図書館)で12年勤務され、退職後は図書館員などを対象にわらべうたや絵本・児童書などに関する講師をされています。

(2ページ目にて、概要を紹介します。)

午後は、静岡県立美術館講堂にて、「子ども図書研究室講演会」が開催されました。教育研究所ゆずりは代表・白百合女子大学非常勤講師の木村はるみ氏を講師にお迎えして、「子どもの発達とわらべうた」というテーマで講演をしていただきました。子どもが成長していく過程を追いつながりながら、発達の各段階にふさわしいわらべうたの例を紹介していただきました。講演の中では歌や手遊びの例が多数実演され、また、参加者全員で隣の人とペアになって手遊びを試してみた後に解説を受けるなど、具体的に理解しやすい講演会でした。会場は終始和やかな雰囲気にも包まれ、参加者の皆さんは楽しみながらわらべうたについて学んでいました。

(3ページ目にて、概要を紹介します。)

## 子ども図書研究室のテーマ展示

ただいま展示中です!

- ◆「月の本」(9月29日まで) ※10月からは「ハンガルの絵本」を展示します。
- ◆「静岡県図書館大会関連資料」(9月29日まで)
- ◆新着図書も展示中です。



## イベント情報

平成22年度第18回静岡県図書館大会 『みつめ直そう図書館の現在と未来』 いま これから

日時:平成22年10月18日(月) 9:50~15:30

会場:静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ 静岡市駿河区池田 79-4

子どもの本に関する分科会 13:30~15:30

第2分科会 《乳幼児・児童・YAに対するサービス》

テーマ:「公共図書館と学校図書館の連携~公立図書館に求められる役割を考える」

講師:林 勝之 氏(奈良市立中央図書館)

第3分科会 《子どもと読書》

テーマ:「絵本の力、絵本の魅力 ~自然の歌をききながら~」

講師:村上 康成 氏(絵本作家)


申込方法:申込用紙(県立図書館ホームページからプリントアウト・県内公共図書館で配布)の提出(来館・郵送・FAX)

宛先:静岡県立中央図書館企画振興課振興係 〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-1  
FAX:054-264-4268

締切:平成22年9月24日(金)



## 児童・青少年サービス研修報告 「わらべうたとおはなし会」

 図書館とわらべうた：図書館ではおはなし会に参加する子どもが全般的に低年齢化してきており、生後数か月の乳児もいます。その結果、おはなし会を対象年齢別に分けて開催するところが多くなっているほか、乳児には従来の絵本の読み聞かせ中心のおはなし会では対応しにくいいため、わらべうたが活用されるようになってきました。

乳幼児にわらべうたを歌うと、リズムに合わせて体を動かしたり、泣いていても泣きやんだりします。それはまるで日本人が本来備えている音階にうたが自然に入っていくかのようです。小さい子にとっては、手遊びも難しいので、代わりにわらべうたに切り替えれば、おはなし会を行う方も聞く方も楽になるのではないかと思います。

**わ**らべうた絵本の紹介：わらべうたの絵本を何冊か紹介します。

『ととけっこうよがあけた』（こばやしえみこ／案 ましませつこ／絵 こぐま社）は愛知では一般的なブックスタートの絵本です。読み聞かせる時には、さいごの「ととけっこう よがあけた まめでっぼう おきてきな」の「まめでっぼう」の部分に赤ちゃんの名前を入れて歌うこともできます。

『ちびすけどっこい』（こばやしえみこ／案 ましませつこ／絵 こぐま社）は、わらべうたの中でも、メロディーはなくリズムをきざんで歌う「となえ」の絵本です。同様に、わらべうたに特徴的なリズムを念頭につくられた絵本に『まてまてまて』（こばやしえみこ／案 ましませつこ／絵 こぐま社）があります。

**わ**らべうたを歌うときは：わらべうたは、高めの声で歌うと、張りのあるやさしい声になります（赤ちゃんの喃語も高い声です。）。

歌うときは、できるだけ高く小さな声で、ゆっくり、やさしい感じになるよう心がけましょう。男性の場合は、無理に高い声は出さなくても、滑舌よく小さい声で歌えば、自然に赤ちゃんの耳に入っていきます。いずれにしても、実際に声に出して歌って、自分の耳で確認しながら覚えていき、上手になっていくのが望ましいです。

**お**はなし会プログラムの例：0・1歳児向けにわらべうたを取り入れたおはなし会の一例です。全体で25分前後になります。

1. わらべうた「くまさん くまさん」
2. 絵本『いない いない ばあ』（松谷みよ子／文 瀬川康男／え 童心社）
3. おはなし「ねずみがおかゆをたいた」
4. わらべうた「たんぼぼ たんぼぼ」「チッチここへ」「メン、メン、スー、スー」
5. 絵本『ごぶごぶごぼごぼ』（駒形克己／さく 福音館書店）『くつついた』（三浦太郎／作・絵 こぐま社）
6. わらべうた「さよなら あんころもち」

**講**演の後半は、研修参加者を交えながらわらべうた遊びの実習が行われ、わらべうたが本来伝承されてきた異年齢集団の遊びというものを経験しました。最後に、わらべうたは機械を通さないのが基本ということで、マイクを使わずに講演をされたのも印象的でした。

### 所蔵資料から

（実用）

『いっしょにあそぼうわらべうた



0・1・2歳児クラス編』

コダーイ芸術教育研究所／著

明治図書出版

1998年8月

0～2歳児向けのわらべうたを多数紹介する。おはなし会プログラムの例で出たおはなし「ねずみがおかゆをたいた」も収録。他に「3・4歳児クラス編」「5歳児クラス編」がある。

（児玉）

## 子ども図書研究室講演会報告 「子どもの発達とわらべうた」

**子**どもが最初に触れるわらべうたは、こもりうたでしょう。「ねんねねむの木」のようなこもりうたは、実生活から生まれてきました。最近の子は寝る時刻が遅くなっています。これは大人の夜型社会の影響でしょう。子どもの成長にはホルモンが大きく関わっていますが、その分泌には生活のリズムが影響しています。こもりうたの伝承とともに、その中に含まれた生活のリズムも伝えられてきました。「ねんねんころりよ」では子どもの名前を入れて歌ってあげると効果的です。

**首**が据わってくる時期には、「はなちゃんりんごを」など、話しかけながら体の部分に触れてあげることを通じて言葉と体の部位の対応がわかるようになってきます。また、目の前で布遊びを見せてあげると、自分で握ろうとして手を使うようになります。

**6**か月頃にはうつぶせの姿勢から腕で体を持ち上げられるようになります。大人の都合でラックに固定するなどして子どもの姿勢を制限することがないようにしましょう。力をつける運動をさせるときには、ただの訓練にならないように、わらべうたを歌ってあげましょう。膝ののせて遊んであげることなどを通じて、足で蹴り返す力が付いてくると、這い這いができるようになります。「どっこやがいん」や「えっちらこ」では、遊びながら手首や足首が鍛えられます。「こどものけんかに」や「ふくすけさん」を歌いながら手足の指をつまんで刺激するのもよいです。

**お**んぶができるようになったら、リズムのいい歌を歌いながらゆすってあげるとよいでしょう。子どもの体を横にした横おんぶや、さらに背中合わせの向きでの横おんぶも、怖がら

ない程度ならばよいです。自分がしてもらった遊びを友達や人形相手にやってあげる姿も見られるようになってきます。

**小**集団での遊びが見られるようになるのは3歳くらいからです。二人向かい合って「こどものけんかに」を歌いながら指をあわせる遊びなどができるようになります。わらべうたを通じた遊びの中で、集団の中での仲間関係も見えてきます。やがて小学生になると、言葉遊び的なものや技を競う手遊びなどが入ってきて、わらべうたを卒業していきます。

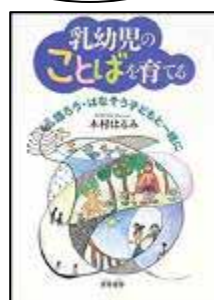
**わ**らべうたは、口承文芸の分野に含まれます。わらべうたには、子どもの発達を大人が刺激してやるためのものと、子どもが仲間で遊んで伝えてきたものの2種類があります。また、同じわらべうたでも地方によってメロディが違うなど、その地方の言葉の自然なイントネーションを反映した地域性も見られます。

**時**間をかけて個々の子どもの成育を見守りつつ、わらべうたを通じて日本人が培ってきた知恵を伝承しながら、子どもたちが遊べる環境を作っていきたいと思います。

### 所蔵資料から

研究書

『乳幼児の言葉を育てる』



木村はるみ／著  
雲母書房  
2005年4月

子どもの成長段階に応じて、大人がどのように「おはなし」などの働きかけをするのがよいかを紹介している。子どもに伝えたい昔話や伝承詩、語呂合わせなどの例を一覧にまとめた「語ってやりたいおはなしリスト」や、「推薦絵本」の一覧も掲載。

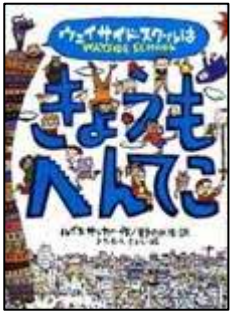
(剣持)

## 新着資料から

文学

『ウェイサイド・スクールは

きょうもへんてこ』



ルイス・サッカー／著  
野の水生／訳  
きたむらさとし／絵  
偕成社  
2010年4月

1フロア1教室、30階建て校舎のウェイサイド・スクール。この最上階にあるクラスの先生と生徒を描いた30編の物語。担任は耳をぴくぴくさせて、子どもたちを次々とリングに変えるし、前歯がかわらしいと評判のロンディには、実は前歯がない。30編ともかなりへんてこ、シュールな世界が広がる。

『穴』（講談社刊）で有名になったルイス・サッカーのデビュー作であり、シリーズ第1作。語り手でもある校庭係「ルイスせんせ」が随所に登場する。【小学校中学年から】（鈴木）

知識

『人がつなげる科学の歴史

ワクチンと薬の発見』



キャロル・バラード／著  
西川美樹／訳  
文溪堂  
2010年3月

科学者たちの発明・発見の積み重ねで科学が発展してきた様子を伝える、「人がつなげる科学の歴史」シリーズ。第1巻では、「ワクチンと薬の発見」を取り上げ、天然痘の予防接種を考案したジェンナーや空気中の微生物を発見したパスツールといった人物に焦点を当てながら、科学がどのように進歩してきたかを紹介する。高度な内容も織り交ぜながら、わかりやすい表現で説明されている。シリーズは全5巻で、最終巻の「新エネルギー源の発見」まで刊行されている。【小学校高学年から】（剣持）

絵本

『みんなで！どうろこうじ』



竹下文子／作  
鈴木まもる／絵  
偕成社  
2010年5月

パン屋「フランセ」前の道路は古くてでこぼこ。そこで道路を直す工事をするようになった。工事現場では、パワーショベルやダンプカー、モーターグレーダーなどの働く車が大活躍。

普段なら部分的にしか眼にすることのない道路工事の全体像を知ることができる。工事現場で働く人はもちろん、商店街の人や道行く人まで、皆表情豊かに描かれている。時計店の時計から時間の経過を追いながら見るのも楽しい。

同じコンビの絵本に『はしれ！たくはいびん』などがある。【4・5歳から】（児玉）

絵本

『こそうさんとりゅうのたま』



はせがわかこ／作・絵  
大日本図書  
2010年4月

ふもとの村へお使いに行った帰り道、泣き虫のこそうさんが、かあさんとはぐれて泣いているぼうやを助けた。こそうさんは、おしょうさんとの約束を守り、次々と襲いかかる試練にも泣かずに耐えていく。なんと、助けたぼうやはりゅうの子で、こそうさんはお礼に願いごとをかなえるりゅうのたまをもらうが…。

こそうさんの必死さがよく伝わり、おしょうさんが拝みながら自分を待っていたことを知って、こそうさんがついに泣き出す場面へと素直につながっていく。【3、4歳から】（鈴木）